

- ・学校運営協議会、権限拡大、情報公開、学校評価は全てセットで考えないと、学校の管理の拡大になるだけだ。
- ・地域からの改革の動きがこうした形で行えるのは、学校にとってもよい刺激になるし、よい制度だと思う。
- ・突然、地域運営学校というのは難しいのでは？まずは学校評議員を充実させる、という手順を踏んだほうがいい。
- ・学校評議員は必ずしも地域の意見を反映したものではない。川崎市が行っている様々な施策を考えると、学校運営協議会は一つの選択肢として考えるのは当然。

《その他》

- ・学校裁量権の拡大と教職員評価は別の項目の中に入っているがセットだと思う。
- ・行政区における支援体制は、施策の中への位置づけ方が大事。不登校や障害児等、学校の中で居場所を持ちにくい子どもに対して生涯学習の中で対応していく事が必要。
- ・このままでは学校がやる事業が増えていくばかりなので、受け皿となる職員組織の充実が必要だ。
- ・スケジュールは時間軸が荒い。すでに動き出しているものと、これから検討していくものが混在している。短期計画と中長期計画をもう少し整理してほしい。
- ・「個性が輝く学校をつくる」は、タイトルとしてあっていないのでは。「地域に根ざした特色ある学校をつくる」のほうがよいと思う。
- ・地域に根ざすかどうか重要だ。外部評価は数値化されたものか、地域で作り上げられたものかではまったく違うものになる。トップダウンではいけない。
- ・背景・目的に書かれていることが非常に大切だ。
- ・地域に根ざした学校づくりを進めると、こうした可能性が出てきます、ということをもっと出していないと、改革プランとして分かりづらい。
- ・学校の裁量権拡大に関して、予算などは、学校ごとに差がつくのか、一律の予算配当の中で使い道が自由になるのか、どちらが想定されるのか。一律配当ではなく、学校と調整の中でメリハリをつける部分を多くしていく。

【「川崎版確かな学力をつける」について】

《川崎版確かな学力》

- ・「生きる力」には体力や人権尊重をという意味も入っていたが、確かな学力だとそれらが抜けてしまう感じがする。
- ・どんな子どもを育てたいといった目標、子ども観があれば川崎版というのが出てくる。子ども像がはっきりしないで学力を論じるのは難しい。
- ・川崎ではどんな人間を育てたいのか、そのメッセージを大きく出す必要があり、「川崎版」という言葉を出すと、そうしたメッセージになる。
- ・「川崎版」という言葉がもつ意味は非常に大きい。それが目標や川崎の子ども像などの中でどう効果をあげていくのか、位置づけを明確にしてほしい。事務局で整理してほしい。

- ・学力の面と人間の面の両方を表す目標をつくられれば、それが川崎版になってくる。
- ・学力ではなく健やかな成長と表現すると、確かに弱いのかも知れない。しかし、健やかな成長を単に2つに分けるだけではなくて、学力そのものについてもう少し考える必要がある。
- ・学力を広くとらえて10年先を考えるとはっきりしてくるだろう。
- ・この部会では、子どもが生きていく上でつけてほしい力を議論したらよいと思う。
- ・市民説明会で、中間報告には理念がないという指摘をされている。何を変えるのかが分からないという意見だったが、それが「確かな学力をつける」ではやはり分からない。子どもの権利に結びついた、明確な表現が必要だ。
- ・学力も南部、中部、北部と地域差を踏まえたものでいい。

《その他》

- ・習熟度別学習は個人的にはあまりよくないと考えている。習熟度をやる予算を少人数学級にかけてほしい。

【「教職員の力をつける」について】

- ・学校の裁量権の拡大には、校長の能力が不可欠だ。
- ・校長が自分の考える教育活動を効果的に展開していくためには、先生のF A制度も必要では。川崎ではできるのか？ 課題が多く、実施するとしても時間が必要。
- ・「採用方法の改善」より大切なのは入ってからのサポートだ。ライフステージにあった研修だけではなくて、「教職員に対する専門化等の相談支援」を重点施策に。
- ・「川崎版・・・」に関する研修内容の評価」は変更してほしい。
- ・単に研修制度を用意するだけでなく、行政、校長、教員の間での緊張感のある関係の中で、教員の成長を支援していくべき。

第7回社会教育専門部会での協議のポイント

【施策体系について】

- ・重点施策と、施策体系の基本施策・基本政策との関係が分かりづらい。
- ・新たな事業と既存の事業の区別が分からないので、改革点が明確でない。

【素案の作り方について】

- ・中間報告から素案にするにあたって、形式的な整理と内容的な整理のズレがある。
- ・スケジュールは、従来どおりの実施なのか新しい位置づけにおける実施なのかが明確になるようにすべき。
- ・中間報告で改革する項目は決めたはずだが、どこへ行ってしまったのか。
中間報告では、施策レベル、事業レベル、理念レベルのことが混在している。それを、整理して書いている。中間報告の内容は全て、必ずどこかへ盛り込む。
- ・なぜこの6つが重点施策なのか、ということが書かれると分かりやすい。

- ・ 全体を通して「今こういう問題があるから、こう改革していく」というつくりにしたほうが分かりやすい。
- ・ 何をどう変えるか、というのを明確にするのが我々の役割。それを網羅的な体系にしていくのが事務局の仕事である。
 - 提言として中間報告はいただいているが、最終的なプランとして、それを行政計画にしていく必要があり、行政と策定委員会とキャッチボールをしながら、プランを一緒につくっていく途中段階にある。
- ・ 学校教育、社会教育、教育行政が統合してやらなければいけないのだ、ということが分かるような視点がほしい。2つの目標が様々な課題から生まれてきて、という言葉がほしい。
- ・ 生涯学習推進懇話会など、今まで色々なところで出されてきた提言書の内容もちゃんと盛り込んでいくべき。

【「学校を地域拠点化する」について】

- ・ 学校を生涯学習のひとつの拠点として考えるのであれば、市民館との連携が大切。
- ・ 虹ヶ丘小コミュニティルームや柿生分館の取組を書くべきである。
- ・ 「学社融合」「学社協働」という文言を出してほしい。
- ・ 学校施設を有効活用しようにも、既存の学校ではもうこれ以上スペースがとれない。
- ・ 「学校を地域拠点化する」は時代に逆行している。学校の教育力が問われているので、このプランをつくろうとしている。この内容ではインパクトがない。
- ・ 子育てを地域全体で支えるという大枠の中に、地域社会に開かれた学校という考えを入れるようなニュアンスのタイトルにするべき。
- ・ 地域の中に生涯学習の場を整備していくことは大きな課題であり、それを全面に出しているのがこの柱。タイトルを変えるのであれば、ハードの考えも残したものに。
- ・ 今部会が中間報告で出したソフトの視点を盛り込む必要がある。
- ・ 教師、子ども、地域市民の「相互学習」も盛り込んでいきたい。

【「自ら学ぶ市民を応援する」「市民の力を活かす」について】

- ・ 川崎の市民館ならではの、新しい機能と役割を書くべきである。
- ・ 図書館だけではなく、もっと身近な施設で情報提供をしていくべきである。
- ・ 地域教育会議は、中間報告では活性化と言っていた。見直しでは、潰してしまうような印象をうける。活性化にする。
- ・ 市民館を中心とした行政区の体系をつくりだしていく必要がある、というのが昨年1年間の議論の大きな柱だった。
- ・ 地域教育サポーターと地域教育会議の関係も書くべき。
- ・ 学校図書館の充実、公立図書館と学校図書館の連携も重要。
- ・ ITの活用だけではなく、多重的なネットワークが必要。

- ・ 色々な市民の発達段階があることを認めながら、それぞれの活躍の場をどうつくっていくか、ということが知恵の出どころ。市民像を押し付けるのはよくない。動機付けをどうつくるかが、ポイント。
- ・ 「市民の学びを応援する」というタイトルにしないと、自ら学ぶ市民しか応援しないように見える。
- ・ 重点施策5と6は、「生涯を通じて学び成長する学習環境の整備」と「市民の力を活かす協働と参画のまちづくり」という2つの方向性で、「学び」と「実践」として整理をしたほうが、違いがはっきりする。
- ・ 地域教育会議の今後の方向性は、現在当事者の中で検討が進められているので、その結果を見て考えていきたい。
- ・ 20ページのイメージ図は、子ども文化センター、学校開放、NPOなどの問題も含めて、行政区と中学校区が全体的に見えるような図にしたほうがいい。

【家庭・地域における教育について】

- ・ 子育て支援を、重点施策5や6に位置づけるべきである。
- ・ 施策体系の「家庭・地域における教育」が重点施策では抜け落ちている。重点施策4を膨らませて、子育て支援の視点を入れるべき。

【「川崎版確かな学力」について】

- ・ 地域に住んでいる大人たちと子どもが学習し合えることというのは、「学力」というよりも「社会力」「人間力」「コミュニケーション力」など生きる力。そういうものが地域になくなってきているから様々な問題が出てきている。
- ・ いのち・こころの教育などは「学力」だけでは表現しきれない。

【「個性が輝く学校をつくる」について】

- ・ 社会の中の学校であるということをきちんと踏まえた議論であれば、「市民の力を活用する」といった、自分たちの支援をしてくれ、という一方的な書き方はなくなるはず。
- ・ 「地域に開かれた学校づくり」「地域と一体化した学校をつくる」という書き方の裏で、地域の意見を聞きながらやっていく姿勢が薄まっている。

【「教職員の力をのばす」について】

- ・ 教職員が管理職を、保護者が学校を評価することも必要。
- ・ 社会教育職員の専門性も大事。